

道の駅を核とした地域活性化事業

NPO法人 日本一直線道まちづくり研究会

【活動の目的】

NPO法人日本一直線道まちづくり研究会は、2003年3月に団体を発足し、日本一長い直線国道の沿線の3市1町（滝川市、砂川市、奈井江町、美唄市）の住民が一体となって、地域の特徴、資源を再発見し、この地域を訪れる人々との交流やまちづくりに関わる事業を通じて、豊かな恵みを共感し合える地域社会の形成、発展に寄与することを目的として活動しています。



日本一長い国道29.2km（美唄市～滝川市）



地域の美化花植活動



スポーツ教室



習字教室



自転車教室

【地域の歴史伝承活動を通じたコミュニティ再生の取組み】

空知地域は、高度成長期には炭鉱で栄えましたが、閉山後、人口が激減し、かつての賑わいがなくなってしまいました。それとともに地域の歴史は、風化する一途をたどっています。伝承活動に向けた資料として各家庭などに残されている懐かしい写真や住宅地図などを募り、これらの資料を体系的に整理して子ども達

に周辺地域のかつての賑わいや、産業、町の歴史について伝える場を提供したいとの思いから、令和3年から、道の駅「ハウスヤルビ奈井江」2階伝習室に再現された古民家を、主な活動の場として古い写真等の収集活動を始めました。



古い写真を集め交流会を開催



しかし、私たちの団体は、古い資料の収集手法や収集したものを使った地域活動に関するノウハウをもたなかったため、NPO法人ほっかいどう学推進フォーラムや北海道文化歴史財団の識者の方々からの助言や指導をいただきながら、活動を進めてきました。

昔を語るシニア世代と接することが多くなるため、新型コロナウイルスの感染対策には細心の注意を払い、地域のシニア層に集まっただき、懐かしい写真や古地図をもとに、かつての地域の暮らしを思い出しながら昔話をする地域活動を4回開催しました。



集めた資料の展示



デジタルサイネージ

コロナ禍では、多くの人を集めるような活動は難しいこともあり、活動で集めた資料の展示、デジタル化した資料は、道の駅のデジタルサイネージに写すなどして、道の駅を訪れる人々に見てもらえるようにしました。この様な活動の結果、地元住民の施設利用率が向上し、新たに設置した情報閲覧スペー

すが、情報発信機能を充実させた道の駅へと変化し施設利用者への情報サービスを提供します。

学校行事や家族写真は、提供者からの聞き取りや写り込んだ背景などから概ねの時代考証を行い、特に町並みや風景写真は当時と現在の比較ができるよう両方を掲示しています。今後は、この地域資料の収集活動と、それをういた「語る会」の活動を、近隣の市町にも広げ『空知ノ物語（奈井江長編）』としてアーカイブすることについても模索しているところです。

【ハウスヤルビとの交流促進、浸透の取組み】

コロナ禍のため、友好都市であるフィンランド・ハウスヤルビ町との対面での相互交流や、町民を集めての有識者による講演は行うことはできませんでした。奈井江町より資料提供をいただき、交流の歴史を整理したパネルを制作し、道の駅に展示し、併せてデジタルサイネージにも映し出すようにしました。これらによって、交流開始から時間が経過し、ハウスヤルビの名を冠にした由来も希薄になっていましたが、その由来を改めて紹介することができました。今では、道の駅の来訪者が興味深く展示物を見る姿も目にするようになっています。

今後、相互交流が再開し、ハウスヤルビ町から使節団を受け入れる際には、道の駅の古民家を利活用しながら、日本の伝統文化や奈井江町の歴史を伝えられるようにと考えています。

なお、地域おこし協力隊や奈井江町と連携し、フィンランド発祥のアウトドアスポーツであるモルックの大会は、雨天のため道の駅多目的広場から会場を変更して開催しており、今後も、ハウスヤルビ町とのつながりを示す活動として継続してきたいと思っています。

【道の駅を中心とした地域周遊の取組み】

道の駅を発着点として、近隣の浦臼町の鶴沼、砂川市の遊水地や、砂川市の国道12号を中心にカフェや菓子店が20店舗ほど点在するスイートロードなど、魅力あるスポットを巡るサイクルルートを作成しました。この地域は、平坦な地形が広がっていることから、子どもでも楽しめるコースとなります。また石狩川には石狩川上流・層雲峡温泉から石狩川河口まで続く、石

狩川流域圏ルートも整備されており、サイクリストの休息、交流、情報発信の場とする施設利用の促進、地域間交流を目指します。作成したルートマップは、道の駅内で無料配布しています。



周辺のルートマップ



石狩川流域圏ルート

また道の駅の隣接地には、新たにMTBやBMXを使った新しい自転車競技「パンプトラック」のコースや、多目的芝生広場（ドクターヘリランデブーポイント）を地元企業（株式会社砂子組）の記念寄付事業により整備し、サイクルスポーツの振興と道の駅との魅力創出を行っています。

パンプトラックコースは、一般利用者、競技者に限らず常時利用が可能で、さらにイベント等の開催によって道の駅とサイクルツーリズムの多様性や地域間交流を高め、利用者目線の施設運営を目指しています。

また、道の駅を防災拠点化した安全・安心なまちづくりを推進するために、地域に根ざす企業、行政、医療機関、道路関係団体等と連携を図り、道の駅のさらなる防災機能強化の拠点と、救命救急に寄与する道の駅の第3ステージ*へと新たな地域づくりに貢献します。

【今後の展望】

地域の子ども達を招いた伝承会は、新型コロナの影響によって、開催することはできませんでした。コロナ禍の収束後に開催できるよう、開催方法について検討を重ねていきます。また、他地域の道の駅でもこのような活動を展開し、地域に暮らす人々が郷土愛を育んでいけるように、空知シーニックバイウェイのメンバーと共同し、これからも、他の町の物語も紡いでいきたいと思っています。

また、道の駅が持つ拠点機能と、利用者との地域のふれあいの場となる魅力ある施設サービスを地域と共に与えます。

* 国土交通省では、道の駅に対する地方創生の拠点として更なる期待の高まりを踏まえ、第1ステージ（1993年～）『通過する道路利用者のサービス提供の場』、第2ステージ（2013～）『道の駅自体が目的地』に続く、新たな第3ステージ（2020～2025）『地方創生・観光を加速する拠点』及び『ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献』する目的の実現に向けて取組みを推進。